

# 源流の 森林

山に挟まれた両岸に雪が積もるせせらぎ。白っぽい石が多い川底のところどころに、一月下旬の真冬でも黒々とした「コケ」の生える石が転がる。郡上市和良町から木曾川水系の飛騨川に注ぐ和良川。この川で捕れる「和良鮎」は昨年、全国の約五十河川から持ち寄られたアユの味や香りの良さを競う「清流めぐり利き鮎会」でグランプリに輝いた。二〇〇二年に続く二度目の受賞。はらわはウニのように甘く、身を食べると、スイカに似た香りが口いっぱいに広がる。

## 清流の美味

下流にいくつものダムがある木曾川水系には、海から天然遡上するアユはいない。和良川のアユはすべて春に放流された琵琶湖産だが、天然遡上の魚に勝るつまさの「秘密」を、和良川漁協の大沢克幸副組合長は自信たっぷりにこう言った。「ラン藻を食べているからね」

アユは、「コケ」や

だが、ケイ藻は少なく、素などを豊富に含んで地夏には川底の石がラン藻の下に染み込み、和良川に黒く染まる。「大雨で石の表面が洗われても、すぐに生えてくる」

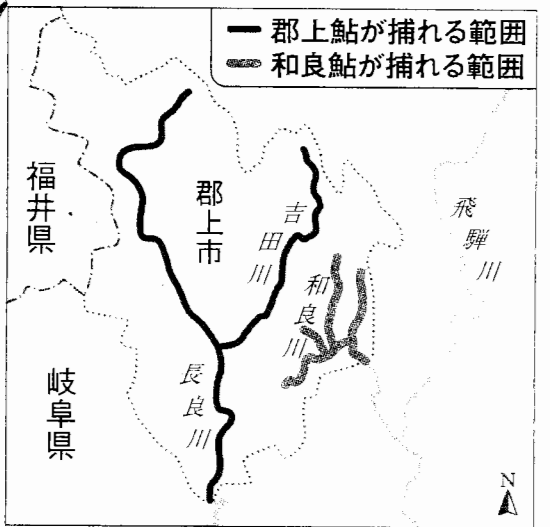
「アカ」と呼ばれる川底の石に生えた藻類を食べる。ラン藻やケイ藻など植物プランクトンが集まった群衆で、栄養価が高いラン藻を食べたアユは、甘みと香りがぐっと増すという。

ラン藻は有機物の多い汚れた水、ケイ藻は澄んだ水を好む。大沢さんによると、和良川は周囲に人家の少ない澄んだ清流

「アカ」と呼ばれる川底の石に生えた藻類を食べる。ラン藻やケイ藻など植物プランクトンが集まった群衆で、栄養価が高いラン藻を食べたアユは、甘みと香りがぐっと増すという。

ラン藻は有機物の多い汚れた水、ケイ藻は澄んだ水を好む。大沢さんによると、和良川は周囲に人家の少ない澄んだ清流

# 山がはぐくむ「日本」



和良川には、生物の活動が鈍る冬期でも黒々としたラン藻が付く石が転がる。郡上市和良町で丸々と肥え、光沢を放つ郡上鮎。郡上市の長良川で、2007年7月撮影(郡上漁協提供)

アユは語る 第2部

過去十二回の「利き鮎会」で三回、最高賞のグランプリに輝いた郡上市のアユ。良質なアユを生み出す「源流の森」の今を伝える。

山林が九割を占める郡上市。郡上漁協の白濱治郎参事は「昔から郡上の人々は山とともに生き、その手入れを怠ってこなかった」。そして、こう続けた。「アユの味は川の味。その川は山がはぐくみ、山は人が守る」

(中尾吟)

# 源流の 森林

「アユを釣るには、山を見る」

郡上市八幡町の釣り師で画家の柴田勇治さん(七〇)は、二十数年前に地元の小川漁師たちから聞いた言葉を胸に今もなおを握る。

郡上の長良川では、六月のアユ解禁日に県内外から釣り人が押し寄せ、河畔は人とサオで埋まる。太公望がひしめき合う中、当時の漁師たちは目線を常に山から川底へ向けながら、決まった場所ですべて大きな郡上アユを釣り上げていた。

柴田さんが近づくと、漁師は縄張りを持つアユのように怒った。そのうちに、漁師が垂らす糸の先には川底から安定的に水がわき出し、釣り場の近くには、こんもりと腐葉土が積もった広葉樹の森があることを知った。

谷から流れ出る冷たい水と違い、わき水の温度はアユが活動しやすい二

## 漁師の極意

# 好漁場求め広葉樹探し

を分解。栄養分がたつぷり溶け込んだわき水の周りには、アユのエサとなるコケがたくさん生えたり、土中のバクテリアが分解して有機物山肌、スギの人工林。た

二三四度に保たれていわけではない。どの山をも。郡上の山の腐葉土は通って来ているのか。広葉樹が群生する斜面、工事が開発で削り取られたす漁師の「極意」だっ

右、別々の山であること源のわき水のある釣り場も少なくなった。話を聞いた六人の漁師は皆この世を去り、郡上に今、専業の川漁師はいない。「地元のプロがいつも

川の流れに迫る山の表情はさまさま。あるわき水は開発による伐採や枯死、人工林の増加などで年々減り、広葉樹林が水源のわき水のある釣り場も少なくなった。話を聞いた六人の漁師は皆この世を去り、郡上に今、専業の川漁師はいない。「地元のプロがいつも



長良川釣給地図を手に、漁場の特徴を説明する柴田勇治さん＝郡上市で

漁師が釣り場にして二、三人いる「玉石がた個所はいつも水が豊富で、大雨が降っても川が荒れることはなかった。厚い腐葉土は大雨の時、スポンジのように水をため、泥水が川へ流れ込むのを防いだ。濁水時には豊富なわき水が川を潤し、山と川を見つけてきた。水流が安定しているため石についたコケや虫が流されず、たくさんのがアユがいた。

柴田さんは釣り絵地図を手に変わりゆく山の姿を見つめて、寂しそうに「今の川は過去に木々がつくった腐葉土(五)は「コケと二緒に虫で、かろうじて生きながら食ったアユは身が引き締まり、実につまかっ

た」と振り返る。

(中尾吟)



# 源流の森

郡上の山々に被害が広がるまで、わずか五年だった。茶色く縮れた葉と、白く粉を吹いた幹。

郡上漁協参事の白滝治郎さん(五〇)は広葉樹の森に点在する茶色く枯れたナラの集団を見るたび、郡上のアユの行く末が心配になる。「山がやせれば、川が荒れる」と。

コナラやミズナラなどの広葉樹がまとまって枯死する「ナラ枯れ」。郡上市南部・美並町で二〇〇五年に初めて確認され、その後、被害は北へ拡大。福井県境の白鳥町から東にも広がり、昨秋、東端の和良でも見つかり、市内全域を覆った。アユ釣り客で郡上にぎわう夏には、枯死したナラはまるで季節外れの紅葉のようだった。

樹木医の川尻秀樹さん

岐阜支社  
〒500-8875  
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番  
058(265)019  
Fax(262)870  
(販売)(265)026  
(広告)(266)479  
(事業)(265)026

多治見支局  
0572(22)312  
Fax(23)533

大垣支局  
0584(78)203  
Fax(74)646

高山支局  
0577(32)035  
Fax(34)521

関支局  
0575(22)323  
Fax(24)393

中日新聞へのご意見は  
読者センターへ  
052(221)080  
Fax(221)081  
Eメール  
center@chunichi.co.jp

## ナラ枯れ拡大

3▶▶

# 弱る保水力に追い打ち

(五〇)によると拡大の一番の原因は、里山に人が入らなくなり、害虫が好むナラの老木が放置されたこと。事態を重く見た市は本年度から本格的な調査を開始。被害が深刻な

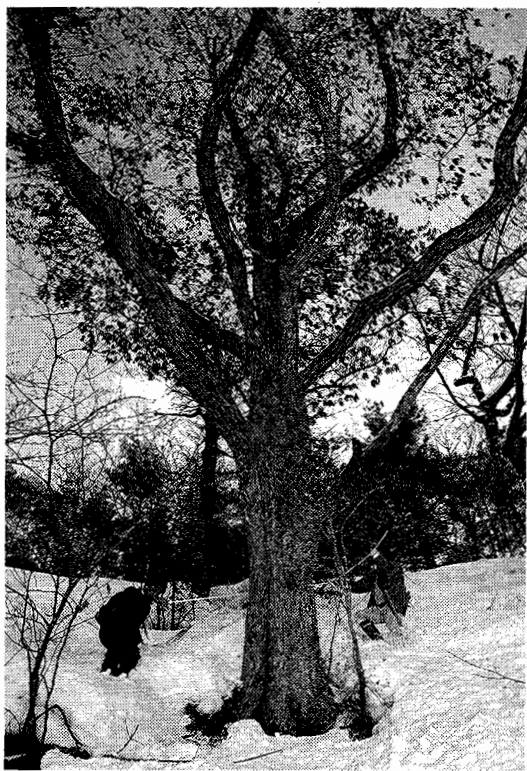
山林のうち、戦前は多くもすっかりと覚えていた。白滝さんは、悪夢のよう

な、あの日の光景を今思い淵を埋めた。良好なアユの漁場は一日で破壊さ

と決めた。

アユのためだけにはない。それが、山と川と共に生き、「水源の森に住む私たちの責任」と思っ

から。(中尾吟)



カシナガが昨年侵入したコナラ。樹高10mの巨木が、縮れた葉を付けたまま枯れていた=郡上市白鳥町中西で

れた。「広葉樹が豊かだった昔の山ならば、こんな状態にはならなかったろう」。郡上市八幡町の堤防で足元まで水が迫る中、消防団員として荒れ狂う長良川を見ていた白滝さんの目にはあふれる川と、雨水をためきれなくなっている郡上の山の姿が重なった。

アユは語る 第2部

木は伐採し、拡散を防ぐ。しかし、戦後の国の造林政策などによる伐採と、葉土がスポンジとなって雨水をためる「緑の夕」の機能が低い。一腐葉土も少なく、雨水が浸透せずに表面を流れ、ナラの老木が放置されたこと。事態を重く見た市は本年度から本格的な調査を開始。被害が深刻な山林のうち、戦前は多くもすっかりと覚えていた。白滝さんは、悪夢のよう

な、あの日の光景を今思い淵を埋めた。良好なアユの漁場は一日で破壊さ

フェンスなど切断  
自衛隊基地 侵入は未確認  
各務原  
十五日午後九時四十分  
加官有地無番地の陸上  
五分ごろ、各務原市那  
自衛隊岐阜分屯地で、



# 源流の森



「沢に水が戻ってき  
た」。慢性的な水不足に  
悩んでいた旧美並村(現  
・郡上市美並町)北部の  
人たちは二十五年前、  
人工林の中によみが  
えった「水源」に色めき  
立った。

村境の旧八幡町(同市  
八幡町)の山林を流れる  
大浅柄谷川。半世紀前、  
夏には水が干れ、雨が降  
ると土石流が流れ込む荒  
れた川だったが、今では  
流量の少ない真冬でも水  
が勢よく流れる。簡易  
水道の取水口がつくら  
れ、下流の長良川には身  
の縮まった郡上アユが捕  
れる漁場もある。

周囲の山々に広がる高  
さ二十五層ものスギの人  
工林を整備してきた森林  
総合研究所・岐阜水源林  
整備事務所(岐阜市)の  
松林順一さん(左)は「澄  
んで、おいしい水」と胸  
を張る。

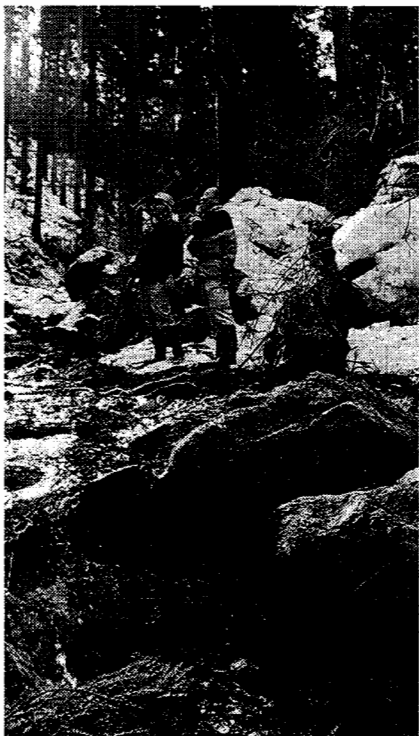
郡上市は面積の九割の

岐阜支社	千500-8875
岐阜市柳ヶ瀬通一丁	058(26)
	Fax(26)
(販売)	(26)
(広告)	(26)
(事業)	(26)
多治見支局	0572(2)
	Fax(2)
大垣支局	0584(7)
	Fax(7)
高山支局	0577(3)
	Fax(3)
関支局	0575(2)
	Fax(2)
中日新聞への二 読者センター	052(22)
	Fax(22)
	Eメール
	center@chunich

## よみがえった流れ

4▶▶

# 植林と間伐で水豊富に



①絶え間なく流れる大浅柄谷川のせせらぎ。手入れの行き届いた杉林から差し込む木漏れ日がまぶしい。②木々が乱伐され、はげ山と化した昭和40年代の源流部。いずれも郡上市八幡町西乙原で

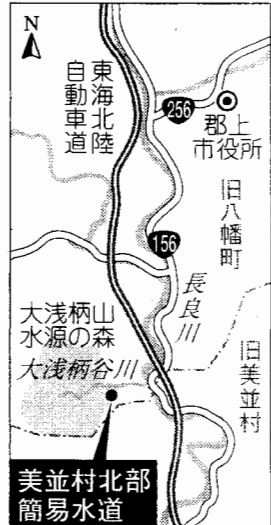
確保するため乱伐。焼き  
畑も作られ、はげ山にな  
った。雨は土中へ染み込  
まず、山肌を滑った。谷  
の豊富なわき水は消え、  
井戸と谷水に頼っていた  
人々の間で水争いも起き  
た。

九万杉が森林。戦前、そ  
の多くはナラやブナなど  
の広葉樹だった。大浅柄  
谷川の上流一帯にも広葉  
樹林が広がり、森の蓄え  
た豊かな水が谷を潤して  
いた。

しかし戦中から戦後に  
かけて、燃料用のまきを  
十年以上かけて百九十五  
の所有者たちが当時の森  
林開発公社(現・森林総  
合研究所)の「水源林造  
成事業」の助成を受け、  
はげ山で植林を開始。二  
十年以上かけて百九十五  
の所有者が数年に  
一度、間伐を実施。当初  
は一杉当たり三千本あつた  
木は今、七百本程度に減  
った。地表に届く陽光を  
受けて低木や下草が根を  
伸ばし、低木の落ち葉が

簡易水道が完成。取水口  
の流量は、市内の五水道  
で二番目に多い一日三百  
七立方メートルになる。郡  
上市は、七百年程度に減  
った。地表に届く陽光を  
受けて低木や下草が根を  
伸ばし、低木の落ち葉が

植林地では郡上森林組  
腐葉土をつくる。同組合  
の小林浩貴さん(左)は「人工林でも適正  
な管理さえすれば、広葉  
樹と同じくらいの保水力  
がある」。一帯は九五  
年、林野庁の「水源の  
ただし、木材価格の低  
迷や林業の後継者不足な  
どで、郡上市の森林の55  
%を占める人工林約五万  
杉のうち、一年で間伐さ  
れるのは三千杉程度。放  
置された人工林では、日  
差しが届かないため低木  
や下草も育たず、保水力  
は格段に落ちる。



定年退職の竹内教授  
三月末に定年退職す  
る岐阜大地域科学部の  
終講義が十八日、岐阜

郡上の「水源の森」の  
再生には、半世紀で四億  
六千万円が使われた。そ  
れでも、分かったことが  
ある。人の手で破壊され  
た「緑のダム」は、人の  
手でよみがえらせること  
ができる、と。

アユは語る 第二部 (中尾吟)



# 源流の 森林

△の道路工事を県が始めたところから起きていた

△の道路工事を県が始めたところから起きていた。実は同じような地滑りに国が進めた造林政策でたぐさんの広葉樹が伐

という。工事で川筋の木々を伐採するうちに、細かな砂が多く、もろい。郡上の山に広がっていた広葉樹林が地中深くに根を張り、地盤を支えていた。ところが、戦後に

内ヶ谷ダム 1959、61年の連年災害などの水害を機に、県が1979年に建設を決めた治水ダム。高さ82m、長さ2700mのコンクリート製で、総貯水量1150万m<sup>3</sup>。最大で6900tの洪水調節能力がある。総事業費260億円。完成すれば、森林46haがダム湖に沈む。

岐阜支社  
〒500-8875  
岐阜市柳ヶ瀬通一丁目12番地  
058(265)0191  
Fax(262)8706  
(販売) (265)0265  
(広告) (266)4791  
(事業) (265)0267  
多治見支局  
0572(22)3121  
Fax(23)5331  
大垣支局  
0584(78)2030  
Fax(74)6460  
高山支局  
0577(32)0350  
Fax(34)5215  
関支局  
0575(22)3234  
Fax(24)3939  
中日新聞へのご意見は  
読者センターへ  
052(221)0800  
Fax(221)0819  
Eメール  
center@chunichi.co.jp

県訪問介護協会  
設立控え説明会  
岐阜  
四月に発足予定の業界団体「岐阜県訪問介護協会」の事業説明会が十九日、岐阜市の岐阜産業会館で開かれ、訪問介護事業者ら約四十人が設立の趣旨などに耳を傾けた。県内の

## 治水と造林

# 緑のダム 壊し半世紀

採られ、土砂が流出した。当時、林業会社で働いていた郷土史家の山田宏さん(モ)は「毎日広葉樹をひたすら切りまくって、パルプに変えとった。見渡す限りの山をきれいにはげ山にしてしまった」。

大雨のたび、亀尾島川から土砂が長良川に流れ地滑りで崩落した土砂に覆われたダム建設予定地近くの亀尾島川河畔。2005年6月、郡上市大和町で(亀崎敬介さん提供)

合流点から五キロ上流に田口砂防ダムを設置。はげ山に植樹された建築材用のスギやヒノキの人工林が、かろうじてもうい土壌を支えてきた。

批判する。

県河川課によると、内ヶ谷ダムは「百年に一度たの洪水に対応するために必要」という。一方、釣

前原誠司国土交通相は「保水力のある広葉樹林があれば、雨に対応できた。むしろ造林をして土砂が流れるからと砂防ダムを造り、また、治水のダムをつくる」とい

「保水力のある広葉樹林があれば、雨に対応できた。むしろ造林をして土砂が流れるからと砂防ダムを造り、また、治水のダムをつくる」とい

批判する。

「長良川水系・水を守る会」の亀崎敬介さん(モ)によると、異変は一九八三年、上流に建設される治水用の「内ヶ谷

内ヶ谷ダム予定地。和歌山、大東、北陸、岐阜、関市、田口砂防ダム

「緑のダム」を壊し、川にコンクリートのダムを造り続けた半世紀。それは、すみかを脅かされ続けたアユの生活史にも重なる。(中尾吟) 終わり

批判する。

「長良川水系・水を守る会」の亀崎敬介さん(モ)によると、異変は一九八三年、上流に建設される治水用の「内ヶ谷

5▶▶



地滑りで崩落した土砂に覆われたダム建設予定地近くの亀尾島川河畔。2005年6月、郡上市大和町で(亀崎敬介さん提供)



アユは語る

第二部